

2019年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
経営学部 国際ビジネス学科	准教授	寺島 雅隆
最終学歴	学位	専門分野
中京大学大学院経営学研究科博士後期課程修了	博士	経営学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

休学・中退のない学生対応を目指す。

(計画)

- ・ゼミナール学生に「オンリーワン」の獲得を促す。
- ・信頼を培う授業運営を心掛ける。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

地域企業フィールド調査、後継者育成論、起業論、日本議 C、基礎演習 I、総合演習 I

(後期)

ビジネスモデル構築論、組織行動論、イノベーション論、基礎演習 II、総合演習 II

○教育方法の実践

なし

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

授業アンケートを鑑みれば、評価は平均的と考えられるが、伝え方や授業内容の理解等、課題は多くある。さらに事前準備に時間を割き、丁寧な授業を心掛けたい。

II 研究活動

○研究課題

障害者雇用、障害者起業に関すること。

○目標・計画

(目標)

障害者雇用と障害者起業に焦点を絞り、計画的に著作をおこなう。

(計画)

- ・先行研究をまとめる。
- ・調査をおこなう。

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・寺島雅隆『起業家育成論-育成のための理論とモデル』、唯学書房、2013年3月

(学術論文)

- ・澤田節子, 古市久子, 葛原憲治, 寺島雅隆, 高間佐知子「本学学生の意識調査から授業改善を目指して—アクティブ・ラーニングは効果的な学習の救世主となりうるか—」『東邦学誌』第43巻第2号、2014年12月

- ・寺島雅隆「愛知県・岐阜県における繊維産業の一考察—アンケートの調査結果を中心に—」『東邦学誌』第43巻第1号、2014年6月
- ・寺島雅隆「中小企業と後継者育成問題—繊維産業における後継者育成計画をめぐって—」『中小企業季報』2013No.4、2014年1月
- ・寺島雅隆「地域活性化のためのニュービジネス—街コン—」『東邦学誌』第42巻第1号、2013年6月
- ・寺島雅隆「後継者育成論—親族外承継（第三者承継）を中心に—」『東邦学誌』第41巻第2号、2012年12月
- ・寺島雅隆「地域と大学の連携—実践的授業の試み—」『愛知学泉大学・短期大学紀要』第46号、2012年3月
- ・稲垣水かげ, 木村典子, 寺島雅隆, 杉浦博子, 横田正, 中山弘之「短大における就職合宿の取り組み—就職活動意欲を高める働きかけ—」愛知学泉大学・短期大学紀要』第46号、2012年3月

(学会発表)

- ・寺島雅隆「ボーカロイドによる授業—言語障害者の試み—」日本ビジネス実務学会第36回全国大会、神戸大学、2017年6月
- ・寺島雅隆「日本社会学会の創設と東京大学の下出文庫」地域創造研究所・中部産業史研究部会、愛知東邦大学、2014年2月
- ・寺島雅隆「フィンランド・チームアカデミーによる教育メソッドのグローバル化」日本国際秘書学会研究大会、カリタス女子短期大学、2014年11月
- ・寺島雅隆, 小林達哉「岐阜アパレルの海外戦略と事業承継」日本中小企業学会中部部会、名古屋大学、2014年6月
- ・寺島雅隆「大学間ゼミ討論会による就業力育成」日本ビジネス実務学会全国大会、札幌国際大学、2014年6月
- ・Noriko KIMURA, Chihiro KIMATA, Yukio ISHIKAWA, Mamoru AOKI, Masatsugu SUGITANI, Masataka TERASHIMA「Perceptions of older people with dementia held by university students and relevant factors」日本教育医学会第61回大会、済州大学校、2013年8月
- ・[学会奨励賞受賞] 寺島雅隆「「街コン」企画・運営によるジェネリックスキルの育成」日本ビジネス実務学会第32回全国大会、札幌国際大学、2013年6月
- ・寺島雅隆「起業家を育成する「しごと」とは」しごと能力研究学会第5回全国大会、愛知学院大学、2012年10月
- ・寺島雅隆「後継者育成に関する一考察—先代経営者による指針と選択—」日本経営学会中部部会、中部大学、2012年6月

(特許)

(その他)

<講演>

- ・寺島雅隆「わが国における起業環境について」証券研究中部学生連盟主催、2013年6月
- <エッセイ>・寺島雅隆「脳出血から職場復帰—身体障害者2級となって—」『障害学研究』15号、2019年12月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・2013年度：科学研究費補助金 基盤研究（B）（一般）（独立行政法人日本学術振興会）「グローバル化する自動車産業の下請企業における事業承継—後継者育成計画をめぐって—」の研究課題で申請（個人）不採択

- ・2012年度：フレンズ TOHO 出版助成金 申請（個人）-採択
- ・2012年度：科学研究費補助金 挑戦的萌芽の研究（独立行政法人日本学術振興会）「親族外承継の増加による、後継者育成のフレームワークの研究」の研究課題で申請（個人）-不採択

○所属学会

日本中小企業学会、障害学会、人を大切にする経営学会、日本ベンチャー学会、日本ビジネス実務学会、日本経営学会

○自己評価

果敢にフィールド調査をおこなった。また、障害学会の学術誌にエッセイを投稿し、掲載された。そして年度末に共著論文を投稿した。他の論文が途中であり、難航している。

III 大学運営

○目標・計画

（目標）

建学の精神に則り、真面目に業務にあたる。

（計画）

- ・与えられた職務を、全うする。
- ・委員会に関連する知識摂取をおこなう。

○学内委員等

人権問題委員会委員、学生・保健相談委員会委員

○自己評価

会議を1回も欠席することなく、参加した。特に学生・保健相談委員会委員では学生状況を説明し、専門知識のある他の委員会メンバーと協働し、対処することができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

（目標）

授業を通じて地域貢献活動を模索する。

（計画）

- ・現地調査や大学祭などを通じて、地域と関わる機会を持つ。
- ・NPO 団体等とのアライアンスを試みる。

○学会活動等

なし

○地域連携・社会貢献等

なし

○自己評価

地域の障害者施設の経営者をゲストスピーカーとして招くことができた。地域連携とその問題点に対し、実際的にかかわることができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

障害者として、業務に支障をきたさないように通院等、自己管理をしっかりとこなう。

VI 総括

会議、授業を1回も休むことなく、業務を遂行することができた。障害者として、朝晩の血圧測定や降圧剤の摂取等を欠かさず、体調管理を経て、大学に迷惑をかけることなく年度末を迎えられた。また、フィールド調査等、研究を推進することができた。論文数は少なく、これから著作へと結びつけることが課題である。

以 上